実習（科学館）

＊題目は仮のものです

受講は無料です．受講希望者は往復はがきに住所，氏名，年齢，職業または学校名と電話番号，観測実習希望の有無を記入のうえ，**7月15日**(木)（当日消印有効）までに下記へ申し込んでください．

名古屋市科学館「公開セミナー係」
〒460 名古屋市中区栄2丁目17番1号
電話（052）201-4486　担当　服部

野辺山ミリ波干渉計共同利用公募
国立天文台野辺山宇宙電波観測所共同利用

野辺山ミリ波干渉計の共同利用（1993年12月―1994年5月）の観測プログラム募集（締め切り8月18日）を行います．申し込み用紙請求先は，

〒384-13 長野県南佐久郡南牧村
野辺山宇宙電波観測所共同利用係
Tel：0267-63-4386

第7回天文教育研究会案内

日時：1993年8月1日(日)～4日(水)
会場：福島市土湯温泉「観山荘」0425(95)2026
参加：講演申込（締切7月10日）
問合せ先：福島大学教育学部理科教育教室
中村泰久　Tel 0425(48)5151
FAX 0425(48)3181
宿泊は別途申込が必要です（締切7月10日）
近畿日本ツーリスト福島支店団体係まで
Tel 0425(21)1411　FAX 0425(24)1525
メインテーマ「天文教育に求められるもの
―今まで欠けていたものは何か―」

星空市場

"意見"

本誌4月号「星空市場」，加藤公子さんの「処女」という比喩について意見を読みました．自分が男のせいか，1月号の「はるかな時空をかける処女たち――その彗星のささやきを聞け――」を読んでも，加藤さんのおっしゃるような「ひっかかり」は何も感じませんでした．むしろ，この解説記事を書いた著者の表現の巧みさに感心したぐらいです．しかし，加藤さんの「意見」は，この種の問題を改めて考えるきっかけを与えてくれました．

差別語と言いわれているものを含め，人を表現する言葉を用いる場合さまざまな配慮が必要なことは言うまでもないでしょう．しかし，私は放送や出版の分野で行われているような，危ない言葉は何でもいいから使うな，と言う言葉の封じ込めには疑問を感じています．

今回の場合，私なりに問題を整理してみると，以下のようになるのではないかと思われます．

(1)"EUREKA"向けの記事として解説記事として，「処女彗星」と言う表現を使わなければならない必然性はどの程度あったか．(2)「処女」という言葉を比喩的に用いることに不快感を持つ読者がいるという事実を，著者は認識しておかねばならなかったのか．(3)加藤さんの「ひっかかり」は，どの程度一般性を持つものなのか．

(1)に関して言えば，1月号の当該解説記事は，文章全体が「処女」彗星という言葉が持つイメージを骨格として書かれており，その意味では必然的であり，ほかの言葉で置き換えようとすると，文章の発想・構成を最初から変えなければならないと思われます．著者は"EUREKA"欄の意義を意識して，こういった表現をしており，その側面だけからいうなら，この解説は成功しているのではないでしょうか．無味乾燥になりがちなこの種の科学解説としては，珍しく読ませる工夫が見られます．

(2)の点について，処女作，処女峰，処女航海，処女雪など，処女何とかという言い方は一般的です．いわゆる「セクハラ」問題などを特に敏感に意識していない限り，初めてのことに「処女」という言葉を使う形容に抵抗を感じることはないのでしょうか．

使われ方の状況によって違ってくるかと思われますが，女性がおしなべて「処女――」という言葉に「ひっかかり」を感じているなら，「配慮」が必用になるでしょう．結局，その人の持つ世界感(ちょっと大げさですが)によって，言葉の持つポテンシャルは違ってきてしまうのですが，少なくとも1月号の当該解説記事に限った場合，特に「配慮」は必要なかったというのが私の考えです．

しかし，加藤さんの「意見」を読んでしまった私としては，これから先，処女航海などという言葉を使おうとするとかなり意識してしまうことになると思います．

永山幸男（東京都）